

## IV 花 き

### 現 況

#### 1 キク

奥越地区での8月咲きギクは、秋植えの8月咲が当初7日以上早かったが、7月の高温により蕾の発達が大きく抑制され、「小紫」、「小鈴」等の品種で、8月中旬に出荷できない株がみられた。出荷は7月下旬がピークであったが、それ以降の出荷は12日までで100～400箱で、例年より少ない。5月2日定植の「小鈴」では、8月10日収穫（昨年8月11日）で切花長85cm（昨年127cm）、節数38（昨年葉数60枚）、花蕾数83、「小紫」では、8月3日開花、草丈73cm、節数33、花蕾数76、「シューペガサス」では8月14日開花（昨年8月5日）、草丈79cm（昨年120cm）節数45（昨年葉数51枚）、花蕾数29であった。

病害虫では7月下旬からアザミウマ類、オオタバコガが増加した。

坂井地区の8月咲キクは、一部の品種が開花遅延を起こし、8月11日頃まで収穫が長引いた。「小鈴」では草丈82cm（昨年82cm）、アザミウマ類は中発生、一部でアブラムシ類（写真1）は少発生している。



写真1 葉裏につくアブラムシ

福井市の二日市町で、8月15日の調査（昨年8月15日）では、「花絵」の草丈83cmで5割開花（昨年草丈115cmで7割）、「小雨」の草丈は78cmで5割開花（昨年2割）、「小鈴」の収穫は終了した。

病害虫は、中位葉以下にアザミウマ類の食害痕が多い（写真2）。

福井市東郷地区で、エスレル処理無しおよび1回処理の「小鈴」はともに収穫終了、「翁丸」はほぼ収穫を終了した。

病害虫は、中位葉以下にアザミウマ類の食害痕が多い。



写真2 アザミウマ類の食害痕

越前町宮崎地区の8月咲ギクは、8月15日の調査（昨年8月14日）で、「小鈴」と「恋心」が収穫終了、「翁丸」が草丈86cm（昨年101cm）、「花絵」が草丈99cm（昨年112cm）でほぼ収穫が終了した（昨年度「恋心」が収穫終了、「小鈴」「翁丸」がほぼ収穫終了、「花絵」は収穫盛期）。9月咲ギクの「かれん」は草丈58cmで蕾径4mm（昨年82cm、4mm）であった。

病害虫は8月咲に中位葉以下にアザミウマ類の食害痕が多く、9月咲で、下位葉に黒斑、褐斑病が多発している。

越前市の8月咲ギクの「はじめ」の草丈が96cmで収穫は6～7割（昨年85cmで収穫盛期）、「秀光」は草丈117cmで収穫は8～9割（昨年110cmで収穫盛期）、「恋心」は草丈115cmで収穫9割程度（昨年97cmで収穫終了）であった。薬害はわずかに確認されている。

二州地区の4月20日に定植した8月咲き小ギク「小鈴」、「花絵」、「さざなみ」等、8月17日調査では出荷終盤であった。

9月咲き小ギクの草丈は、8月17日調査（昨年8月9日）では、「映紅」が草丈92cm（昨年

60cm)、蕾径 6 mm (昨年 2mm)、「わかさ」が草丈 95cm (昨年 81cm) で未出蕾 (昨年蕾径 3mm)、「おりがみ」が草丈 106cm (昨年 94 cm)、蕾径 5 mm (昨年 3 mm) であった。10 月咲き小ギクの生育は、「お吉」が草丈 55cm (昨年 38cm)、「ふるさと」46cm (昨年 19cm)、「はくろ」25cm (昨年 35cm) であった。病虫害はアブラムシ類が多発、一部にハスモンヨトウ、オオタバコガが発生している。

若狭地区の 4 月 17 日より定植された 8 月咲きキクは、8 月 14 日の調査では、ほとんど収穫が終了したが、「まぼろし」、「ふくろう」は 30~40%程度が未収穫である。病虫害は全体的にアザミウマ類が少発。5 月 16 日より定植された 9 月咲き小ギクは、8 月 14 日調査(昨年 8 月 14 日)で、「楽園」の草丈が 75cm (昨年 92cm)、蕾径 5 mm (昨年 4mm)、「初秋」で草丈 70cm (昨年 82cm)、蕾径 6 mm (昨年 4mm)、「おりがみ」の草丈が 87cm (昨年 94cm)、蕾径 4 mm (昨年 7mm) で、昨年より草丈が短い。

10 月咲き施設栽培の小ギクは、「ようせい」の草丈が 24cm (昨年 38cm)、「白馬」では 31cm (昨年 34cm)、「おりづる」が 51cm (昨年 59 cm) となっている。電照抑制の 11 月咲作型では、「ようせい」の 26cm (昨年 10cm)、「白馬」では 24cm (昨年 11cm)、「おりづる」で 26cm (昨年 8cm) で、昨年よりは生育が良い。

寒ギクは一部の品種で枯死株があるものの、いずれの品種も草丈は 3~6cm 程度である。病虫害はアザミウマ類が中発生している、

農業試験場における主要品種の収穫状況は表 1 のとおりである。

表1. 農業試験場 露地圃場における収穫状況(8月22日現在)

品種名	平均収穫日	収穫時草丈	品種名	収穫日	収穫時草丈
はくよう	8月1日	79.8	あすか	8月9日	101.2
さやか	8月8日	92.8	はなふさ	7月7日	75.1
さぼてん	7月30日	67.9	牛若	8月6日	96.4
花絵	8月8日	97.3	こずえ	8月6日	96.2
星の砂	7月27日	76.3	ふくろう	8月2日	101.6
シャロット	7月16日	100.2	七夕かざり	7月30日	82.2
白樺	8月11日	90.5	ひまわり	7月22日	100.3
舞人	7月22日	87.3	シューペガサス	8月3日	85.5
翁丸	8月3日	75.6	奥越の舞	7月12日	75.5
さきがけ	7月22日	81.2			
はるか	7月1日	80.2	清風	7月12日	82.2
織姫	7月15日	77.2	サマーゴールド	7月4日	77.7
とび丸	7月5日	80.1	夏紅車	7月9日	83.2
小鈴	8月4日	89.6	砂浜	7月10日	70.2
うたげ	7月10日	75.5	星の輝	6月30日	76.6
玉姫	6月12日	70.2	スーパーイエロー	7月9日	75.5
くれない	7月15日	77.3	新流星	6月24日	70.3
かばちゃん	7月12日	82.1	宝の山	7月14日	82.2
小紫	7月24日	85.1	サマー3号	7月3日	86.4
やよい	7月8日	83.2	東海福祉	7月15日	90.2

挿し芽:3月26日、定植:4月11日、摘芯:4月25日、N=30 kg/10a

## 2 ユリ

奥越地区のシンテッポウユリは、4月に定植した「オーガスタ」の中心球作型が、大阪、金沢、福井へ出荷された。本年度は実生苗の出荷がかなり遅いことに加えて、葉枯病が花蕾、葉にみられた。草丈は85cm（昨年85cm）、蕾数は3～6輪（昨年3～6輪）であった。

坂井地区のLAユリは球根が8月下旬に入荷予定。JAの施設により馴らしと芽伸ばしを行う予定である。

あわら市の実生栽培の「オーガスタ」が7月下旬より収穫が始まり、8月21日の調査では、80%の収穫が終わっている。5月下旬に露地に定植した「雷山2号」は8月に入ってから収穫が始まり、ほぼ収穫が終了した。「オーガスタ」は輪数の揃いが良い（2～4輪が70%以上）が、雷山2号は花型が良いがばらつきが大きく、1輪花も多かった。中心球栽培の作型は、7月中旬でほぼ収穫が終了したが、オーガスタは2～4輪花が多く、出荷時期も集中したが、雷山2号は1輪花が多く、出荷時期も間延びした。

ハウス栽培では7月から葉やけが発生し、遮光を行ったが一部に花首のびが発生した。



写真3 シンテッポウユリとトルコギキョウ（8月上旬、あわら市）

## 3 ストック

あわら市ではアイアンシリーズが夏撒き秋冬取りの作型の主要な品種である。直播栽培は8月8日から、移植栽培は8月6日から開始された。品種は「チェリーアイアン」、「マリンアイアン」、「アプリコットアイアン」、「ホワイトアイアン」等であり、8月中旬現在で直播栽培では本葉2～3枚程度、移植栽培では本葉3～4対程度である。一部で高温乾燥による発芽不良が見られた。

越前市ではカルテットシリーズが8月20日頃に直播予定である（昨年20日過ぎ）。



写真4 ストックの移植（8月上旬、あわら市）

## 4 トルコギキョウ

あわら丘陵地の二度切り栽培（抑制作型）の定植は、種子冷蔵苗（購入苗）の定食が7月下旬～8月5日に行われ、活着はおおむね良好である。品種は主として、ロベラシリーズ、レイナシリーズ、ネイルシリーズである。7月下旬定植は4対葉で、10月上旬に出荷予定。一部に立枯病が小発生している。

4月定植のものは7月中旬～8月上旬で収穫が終了した。5月定植のものは60%収穫済。立ち枯れ病（フザリウム）が一部で少発生している。4月定植、5月定植共にこれまでの高温による開花が2週間程度前進している。5月下旬定植の「バルカンマリン」が開花盛期であったが、遮光したハウスでは花首折れが多発し、収穫不能株が見られた。

越前市の8月15日調査(昨年14日調査)では、盆用の収穫がほぼ終了した。冷蔵苗を用いた7月定植作型(7月27日定植)では、「ダブルミント」では草丈が10cm、対葉数6、「レイナホワイト」では草丈が13cm、対葉数6であった。

## 5 その他

切り花用ハボタンは、福井牛東郷の8月15日調査で(昨年8月15日)、「初紅」では草丈8cm、葉数11枚(昨年17cm、葉数16枚)、「晴姿」では草丈5cm、葉数7枚(昨年11cm、葉数10枚)であった。病害虫として、アオムシ類の食害が少発生している。

アスターはあわらのステラシリーズ、あずみ系が出荷されており、さび病が多発。彼岸出荷用の電照抑制栽培は5~20cm(昨年15~20cm)で、開花はかなり遅れている。かなりの株に根腐れが発生している。

## 対 策

### 1 秋植え夏ギクの定植準備と定植

#### (1) 苗づくりの管理日程

時 期	8/17	9/10	9/15	9/25	10月上
・かき挿し苗	台刈		かき挿し	苗とり	・定植
・土寄せ苗	台刈	土寄せ	仮植		定植

本年は、高温で株が弱っているため、雨をめぐけて台刈りを行うか、雨後草勢が回復してから行う。草丈が低くスタントウィロイドに罹っている可能性がある株や黒さび病が罹病している株は用いない。

#### (2) 苗床の病害虫防除の徹底

白さび病とアザミウマ類、ハダニ類を中心に防除を徹底する。病気に弱い品種は特に罹病しないように注意する。ウイルスを媒介するアザミウマ類の防除を励行する。併せて周辺環境の除草を励行し、飛び込みを防止する。

病害：有機硫黄系剤(ステンレス剤、ジマンダイセンフロアブル、エムダイファー水和剤)を週1回、予防剤散布する。

害虫：ミカンキイロアザミウマやミナミキイロアザミウマには、オンコル粒剤5やプリンスフロアブルを散布する。カブラヤガが産卵を行うときがあるので、適切な対策を行う。ただし、プリンスフロアブルは大型の幼虫(オオタバコガ等)には効果が少ない場合があるので、注意する。薬剤散布にあたっては、抵抗性害虫の発生を抑えるため、必ず違う系統の薬剤をローテーションして行う。

#### (3) 苗の育成

##### ①かき挿し苗

台刈2~3週間後の9月上中旬に、わき芽の長さが10cm程度になったかき挿し苗を、親株の付け根より掻き取って用いる。穂は、天幅1m程度、高さ15cm程度の畝をつくり、5×10cm程度の間隔で挿す。挿し芽後は十分に灌水する。1週間程度は、株の消耗を抑えるために寒冷紗などで30%程度遮光する。発根後に、有機配

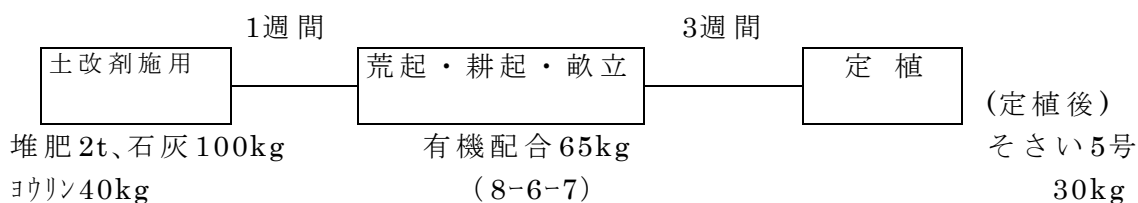
合肥料（窒素6%程度）を1m<sup>2</sup>当り100gを条間に施用するとともに、液肥1000倍を1週間に1回、2回程度施す。

## ②土寄せ苗

9月上中旬頃に土寄せする。充実した苗をとるために、畝10m当り有機配合（窒素成分6%程度）1kgとそさい5号200g程度を施す。

- (4) 苗の定植時期は春の芽立ちを良くするため、奥越地方で9月下旬～10月上旬、福井平坦部で10月上旬、若狭地方で10月中旬までに植え付けるよう定植準備を進める。輪作の間隔が短いとキクの生育が極端に低下するため、最低でも3年間は間隔をあけることが望ましい。

## (5) 標準的作業過程と施肥量（10a当り資材量）



- (6) 排水が悪いと越冬性が低下するので、排水の良い圃場を選定する。額縁排水など排水路の整備を行う。
- (7) 標準的な畝幅は1.3mとするが、排水の悪い圃場や耕土の浅い所では狭めにとる。畝の高さを20cm以上確保する。畦成形後、速やかに灌水し、除草剤の前処理剤を散布しておけば、翌年まで抑草効果がある。
- (8) 栽植密度は35cm条間の2条植えとし、株間は10cmを標準に芽立ちの悪い品種はこれより狭くし、芽立ちの良い品種は広くする。また、6月咲きや芽立ちの悪い品種は早めに定植する。

## 2 秋ギクの肥培管理と防除

肥効が落ち、葉色が淡くなり、葉の生育が悪くなっている場合は、マルチの条間部分を破って雨水を入れることで、土壤中肥料の肥効を高める。また、1000倍に希釈した液肥を葉面散布するか、開花30日前後に速効性の化成肥料を少量施用する。ただし、白さび病、黒さび病の兆候がみられる場合は控える。また、8月中下旬からオオタバコガが多発するため、ローテーション防除を行い、被害の抑制を図る。

## 3 キクの主要病害虫防除

### (1) キクの白さび病

9月に入り気温が低下し、雨が多くなると、白さび病発生の好適条件となるので防除を徹底する。下葉に病斑がある場合は病葉を除去し、チルト乳剤25、アンピルフロアブルなどの治療剤を葉裏にもかかるように散布する。ただし、感受性が低下した薬剤は、散布しない。

- (2) アブラムシ類は圃場の周辺（畝のはし）から侵入するので、初期の防除に努める。薬剤抵抗性の発生を避けるため、系統の異なる薬剤（例：オリオン水和剤40（カーバメート系）、アーデント水和剤（ピレスロイド系）、モスピラン水溶剤（ネ

オニコチノイド系)、ウララ50DF(フロニカミドなど)を交互に散布する。数回に1回はエコピタ液剤等の気門閉塞で殺虫する剤を取り入れ、抵抗性害虫の増殖を抑制するとよい。

(3) アザミウマ類も多くなるので、膜切れ4~5日前より薬剤散布を励行する。

#### 4 キククロロティックモットルウィロイドについて

(1) 病気の特徴として、キク下葉に退色・緑黄斑症状が現れる。品種や他のウイルス、ウィロイドとの重複感染により症状が異なる。

(2) 伝染方法は、接触(汁液)伝染のみであるため、下葉かき、摘蕾などの管理作業は、感染が疑われる株を後回しとし、手袋を変えたり、はさみ等使用器具を火などで消毒したりしながら作業を進める。

(3) 台風やネット上げ時の葉擦れによっても感染拡大するため、疑わしい品種は導入しない。

(4) 感染株は圃場から除去し、他株に感染が拡大しないようにする。

#### 5 スイセンの管理

(1) 季咲スイセンでは、9月上中旬に雨量が少ないと開花期が遅れる傾向があるので、前年に葉先枯病の発生が少なく、用水が確保できる圃場では灌水する。夕方から夜間に灌水し、昼間は溝に停滞水がないようにする。

(2) 促成栽培の遮光資材の取り外しは、気温25℃以下になった時点(9月15日頃)を目安とし、曇天の時に行う。

(3) 促成栽培では9月下旬以降の灌水をやめ、根腐れ防止のため、溝さらえ等圃場排水を徹底する。

(4) 球根養成圃場では、PK化成をa当たり5kg、マグフミン等の石灰資材を10kg施す。

(5) イノシシの獣害が多くみられる地域では、電気柵等で対策する。

(6) 台風対策をしっかりと行い、ハウス栽培では補強を行う。雪害にも備えるよう、支柱などを準備し、十分に補強しておく。

#### 6 ストックの管理

(1) コナガは育苗中から開花期にかけて常時発生し、葉裏から食害される。苗や生育初期に心葉が食害されると被害が大きく、生育が遅れ枯死することもある。抵抗性の発達しやすい虫であるので、薬剤散布後は効果を確認し、系統の異なる薬剤をローテーションで使用する。トアロー水和剤CT、コテツフロアブル、ノーマルト乳剤などが有効である。コナガコンなどの交信攪乱剤を用いる場合はできるだけ広域に設置する。

(2) 気温が高い時期の育苗では、立枯れ性病害の予防対策としてオーソサイド水和剤80を散布する。立枯れ性病害が発生した場合は、被害株を抜き取り、病原菌を判別する。簡易な判別法では、苗立枯病(リゾクトニア菌)の発病株を引っ張ると、地際からちぎれるが、苗腐病(ピシウム菌)の場合は、地際部がこより状にくびれ、引っ張るとちぎれないで、根がついてくる傾向がある。生育がやや進むと、苗立枯病では地際部分から褐変し、表皮が脱落して、茎の髓部のみとなるが、苗腐病は根が褐変し、生育不良や萎凋する。

(3) 本圃の定植前に立枯れ性病害の予防対策としてガスタード微粒剤20~30kg/10aで土壌消毒する。

(4) 定植後の遮光の期間が長くなると、徒長するばかりでなく花芽分化が遅れ、開

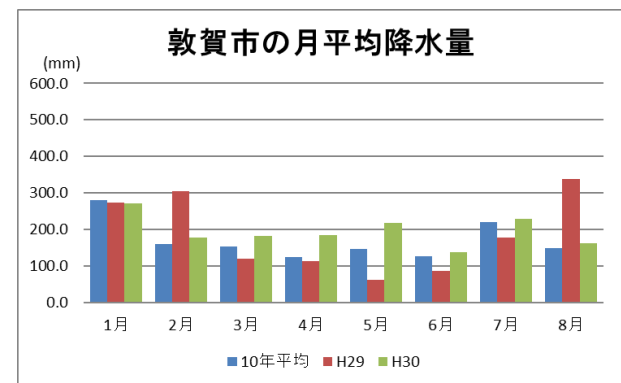
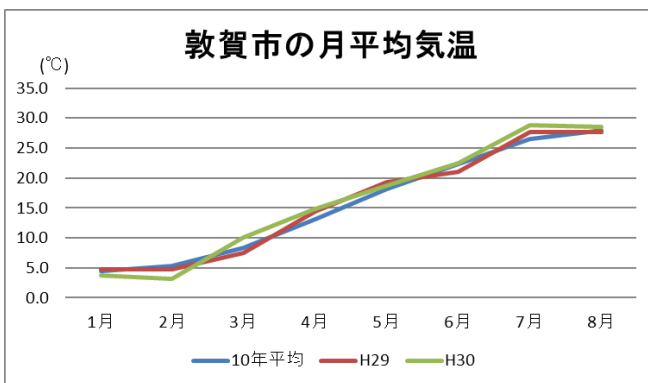
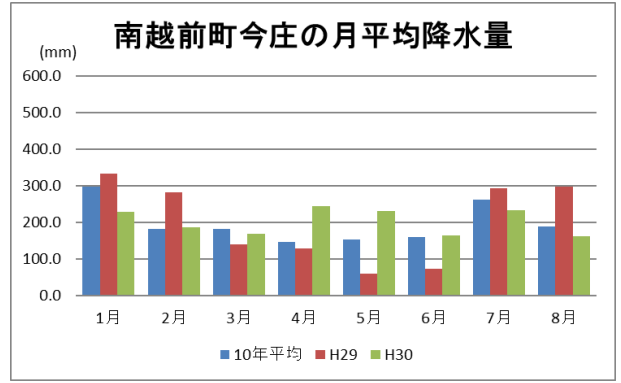
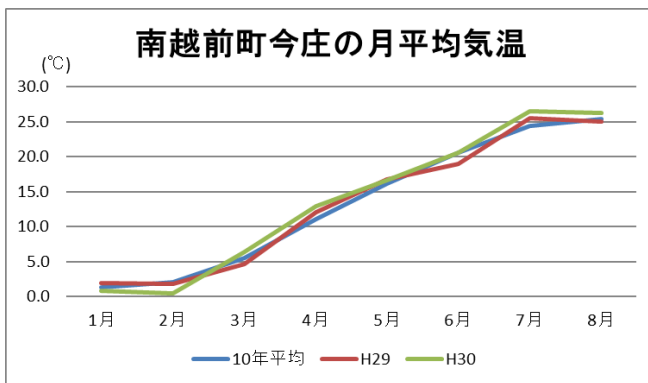
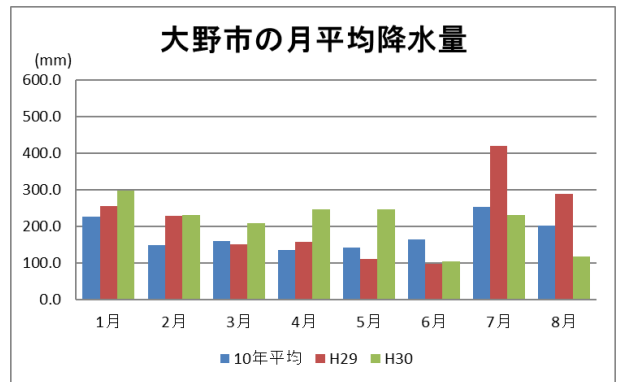
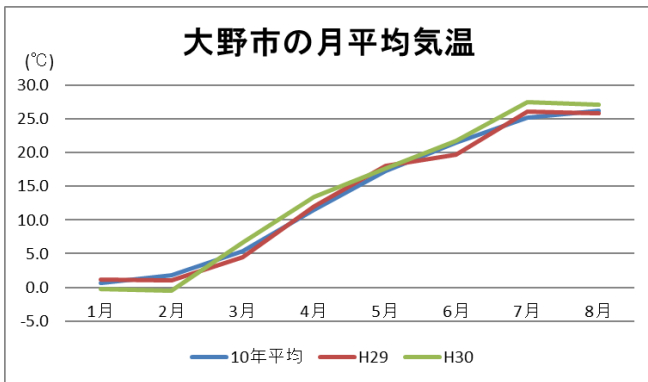
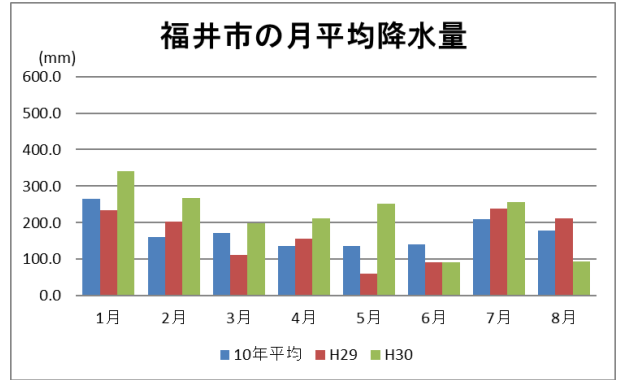
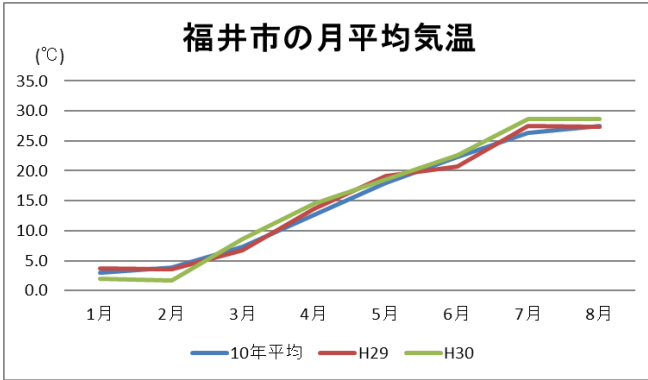
花が遅延するので、遮光資材は活着後にできるだけ早く除去する。

- (5) 定植後1か月間は、1週間に1回の間隔で、液肥を積極的に施用し、活着と初期生育を促す。
- (6) ストックの中生や晩生品種では、ビビフルフロアブルの1,000倍を、葉数が10～14枚の時と、その7～10日後に2回茎葉散布することで開花が促進される。10a当たり100リットルを目安に散布する。
- (7) 9月下旬～10月上旬の花芽分化前後に高温に遭遇すると、花とびや心止まりが発生するため、10月中旬まで気温17℃を目安にサイドビニールを開放する。
- (8) 10月下旬から保温を開始するが、日中は必ず換気して温度較差を少なくする。
- (9) 発蕾までは草丈を確保するため、灌水を充分に行う。発蕾以降は徐々に灌水回数を減らし、開花期が近づいたらさらにひかえて切り花の品質向上を図る。

## 7 ハボタンの管理

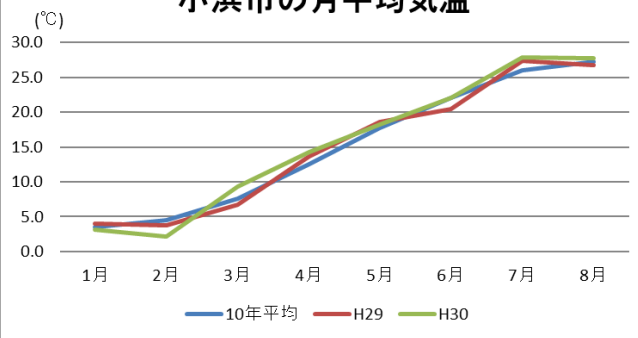
- (1) 栽培中から開花期にかけてヨトウムシ、アオムシ類等が発生し、食害される。苗や生育初期に成長点の芽が食害されると被害が大きく、生育が遅れ枯死することもある。抵抗性の発達しやすい虫であるので、薬剤散布後は効果を確認し、系統の異なる薬剤をローテーションで使用する。フェニックス顆粒水和剤、プレオフロアブル、ノーモルト乳剤などが有効である。
- (2) 葉かき作業を順次行う。下葉かきを生育期間内に3～4回行い、風通しを良くするとともに草丈を伸ばす。生育初期段階では、葉を込み入らせた方が草丈が伸びるため、葉かき作業は1度行わず、間をおいて徐々に行うことで、草丈を確保することができる。
- (3) 水分管理  
露地栽培では干ばつが続いたときやハウス栽培で土壌水分が十分でない場合は、灌水を行い、適切な水管理を行う。逆に、秋の長雨で圃場に停滞水がある場合は排水対策を行う。

アメダスの気象データ





### 小浜市の月平均気温



### 小浜市の月平均降水量

